

めざす子ども像

## 自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども

取組目標

～守ろう地域のたから 育てよう故郷を愛する子どもたち～

## 【今年度の取組紹介】

## 【大学生参画事業】

今年度も3名の学生をCNの一員として迎え入れ、学校担当司書の指導のもと蔵書整理や昼休みの開館を見守り、学校図書館のより良い活用の仕方・生徒の居場所などをCNと考えました。生徒と相談しながらの季節の掲示・体育大会受付での保護者対応など真摯に前向きに取り組む姿は、将来の教師像を彷彿とさせ、私たち大人にも明るい未来を感じさせてくれました。



## 【どんぐりプロジェクト】

どんぐりポスト設置2年目の今年、京チュン通信によるプロジェクト告知で地域住民からも大きな協力を得ることとなり、昨年(361kg)の倍以上の814kgのどんぐりが集まりました。子どもたちと一緒に奈良の鹿愛護会に届けることも叶い二重の喜びとなりました。



## 【広報紙「京チュン通信」】

私たちの事業を多くの人に知ってもらうツールとして年2回発行しました。夏号には5年ぶりに子どもたちのおすすめスポットを、春号では恒例の中学卒業生からのメッセージを掲載。準備から校正、仕分けまで全CNが関わり作り上げています。



## 【今年度のまとめ】

- ・学校担当司書のサポートをする図書ボランティアがいることで、学校図書室が子どもたちの居場所となり、地域人材を学校教育の一助にすることを継続できました。
- ・「京チュン通信」は子どもたちや地域の皆さんにも好評で発行を心待ちにする人が増えています。
- ・コロナ禍の後の新しい時代を見据えながら活動の輪を広げ、効率的な取組の方法を模索していきたいです。

## 【来年度に向けて】

- ・来年度も地域・家庭・学校が連携・協働して子どもたちを育成する活動を推進します。
- ・『継続は力なり』をモットーに粘り強く取り組んでいきたいです。
- ・「史跡散策」「授業支援」「京チュン通信の発行」などの活動を地道に取り組み、ボランティアの輪を広げ、サポートが必要な場面で必要な支援ができる組織を目指します。
- ・大学生参画事業を通して、学生を地域CNとして積極的に活用していきます。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、

自らのまちのことを語れる子ども

取組目標

学校を美しく ところを豊かに 挨拶が響き合い

互いの思いを語り合える学校に

#### 【今年度の取組紹介】

○「国際交流事業」として、日本への留学生の方を講師としてお招きし1年生で交流を行いました。  
○学習支援活動として、福祉体験の講師、または補助として取組に参加いただきました。また、地域の図書ボランティアによって昼休みの図書室の開館や環境整備等の取組に参加していただきました。

今年度もコロナ禍にあり、例年より少ない機会ではありましたが、生徒たちは終始、地域の方と共に熱心に活動する様子が見られ、地域の一員である自覚が芽生えてきているように感じました。



#### 【今年度のまとめ】

○多くの事業が定着し、生徒や地域にも受け入れられています。

地域の皆さんが温かく見守ってくださり、時には一緒に活動して、生徒たちに積極的に関わりをもってくださいすることで、生徒一人ひとりの心の中に学校愛や地域愛が生まれ、自らの地域、まちを誇れる生徒の育成につながっていると思います。また心にゆとりが生まれ、挨拶がしっかりできる生徒がますます増えてきて、まちでは朝から元気な声が響き、地域の方々との交流の機会となっています。

#### 【来年度に向けて】

○感染症対策に工夫を凝らすなどし、今年度以上に、地域の方との協働による事業を推進していきたいと思います。

○各取組が、生徒・保護者・地域の皆さんに深く浸透していることがうかがえます。

○マンネリの活動にならないように工夫行うとともに、地域の方々に参加してよかったと思っただけの活動方法をさらに模索していきたいと思います。

めざす子ども像

自らのまちに誇りをもって、

自らのまちのことを語れる子ども

取組目標

命こそ宝、地域が宝。宝を活かそう！

【今年度の取組紹介】

新型コロナウイルス感染による感染拡大予防措置を取りながら、地域 CN・ボランティアの皆さんが子ども達の学習活動を支えてきました。

① 図書ボランティア（としょぼん）による活動

- 掲示物作成
- 新書のブックカバー作業
- 本の整理
- としょぼん通信の発行
- 書架の作成 等



② 学習支援

- 福祉体験の補助
- 読み聞かせ
- 七夕飾りの補助 等



【今年度のまとめ】

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により当初の活動計画の変更を余儀なくされたが、感染状況を見ながらできることを地域と共に考え、再開できた活動もありました。

【来年度に向けて】

- ・ 保護者・地域にも活動取組を紹介することで、学校にいなくても活動がわかるように発信していきます。
- ・ 感染予防対策をしながら、「できる事を できる時に できる形で」地域の方と共に前進していきます。

めざす子ども像

**自らのまちに誇りをもって、****自らのまちのことを語れる子ども**

取組目標

**ともに学び、ともに歩み、豊かな人権感覚を熟成する学校  
～子どもたちの瞳輝く「ふしなんプロジェクト」の創造～****【今年度の取組紹介】**

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた取組をなかなか思い通りに進めることができませんでした。人と人ができるだけ交わらないように工夫しながら、極力取りやめにならないようにして実施しました。地域行事として伝統文化を学ぶ「天の川の集い」「しめ縄づくり」「干し柿作り」「とんどの集い」は、コロナ禍ではありましたが工夫をして実施しました。地域の方と昔からの伝統行事を体験したり、地域の方とのふれあいを楽しむ良い機会は少なくなりました。また、コロナ禍ではありましたが、地域の方をゲストティーチャーとして招聘し、薬物乱用防止教室を開催しました。

そのような中で地域の方に、見守り活動や図書室の整備、花いっぱい運動、清掃活動の環境整備に努めていただきました。

毎週、図書ボランティアと図書館司書によるブックカバー貼りや図書室の環境整備、図書コーナーの設置、読み聞かせなど子どもたちが本に親しむ場を作っていただき、読書をすることが楽しいと感じる子どもが増えました。

**【今年度のまとめ】**

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の方との交流を目的とした体験的な活動が計画通りに進めないながらも、地域の方や地域 CN の方々が中心になって、それぞれの行事をあきらめることなく、工夫をした学習環境づくりを通して子ども達の道徳的実践力を養い、自己肯定感を高めることができました。

**【来年度に向けて】**

新しい学校様式の一つとして、本年度、コロナ禍で培った、様々な形態による児童への学習場面の設定、事前の映像制作による学習場面の設定をさらにステップアップさせ、子どもたちの学びを深める体験活動や環境整備を中心に取組を進めていきたいと考えています。地域の方が学校教育に参画していただけるような学習場面を設定し、ゲストティーチャーや学習ボランティアとして参加していただけるような年間計画の作成を行うとともに新たな人材発掘をしていきます。

めざす子ども像

**『自らまちに誇りをもって、自らのまちのことを語れる子ども』**

取組目標

**「こころとからだで感じ、意欲的に遊び、たくましく生きる子ども」を育成する****【今年度の取組紹介】**

六条幼稚園は9月18日に創立50周年を迎えました。地域に根差した幼稚園ということで、古くから地域の方々の深いご理解とご支援をいただいています。奈良市観光大使のシンガーソングライター氷置 晋さんを迎えた50周年記念コンサートでは、保護者や、地域を代表してお招きした学校評議員、ゲストティーチャーの方々と一緒に氷置晋さんの温かい歌声とゆるキャラ「ぴよっきー」のかわいい動きに和ませていただきました。同日、運動場で子ども達はサーキット遊びとドローンの操縦体験を、大人たちはセグウェイ等の乗車体験をし、大人も子どもも、日常では味わえない感動体験の場となりました。又、運動会や作品展も50周年記念として実施し、保護者の中には自身が卒園生の方もおられ、「自分が小さいときは」と話してくださり幼稚園の50回目の誕生会をみんなで祝いする内容となりました。

今後子ども達には、地域の方に見守られている事に感謝する心を持ち、50年の歴史を感じ、それを継承していく当事者としての自覚を持ちながら地域を誇りに思う気持ちが育ってほしいと考えています。

**【今年度のまとめ】**

今年度もコロナ禍を日常と受け止め、園生活を楽しんでいる子ども達ですが、「菜の花プロジェクト」をはじめとするそれぞれの事業で地域の方と一緒に体験的な活動をしたり、幼稚園の50歳をお祝いしたりする中で、周りの方に感謝する気持ちや地域を誇りに感じる気持ちが育ってきました。保護者や地域、学校評議員の方々からも子どもたちの姿から見た本園の取組に対し高評価をいただいています。

**【来年度に向けて】**

来年度も地域教育力に助けをいただきながら、子ども達に五感を刺激するような様々な経験をさせてあげたいと思っています。またその取組をホームページや六条幼稚園ニュースで紹介し、六条幼稚園の子ども達の様子をお知らせしていく予定です。

めざす子ども像

## 自らのまちに誇りをもって、 自らのまちのことを語れる子ども

取組目標

いろいろな人や身近なものとの関わりを通して、  
心豊かでいきいきと活動する幼児を育てる。

### 【今年度の取組紹介】

#### <花植え>

環境整備の一つで、地域コーディネーターやボランティアの方と一緒に、園庭の花壇やプランターに花を植えています。子ども達は、「この色がいい」と好きな色を選び、植え方を教えてもらったり、手伝ってもらったりしながら植えています。登園後、子ども達はペットボトルのジョウロで水やりをしながら、生長を楽しみにするとともに、世話をする大切さを学んでいます。



#### <草刈り>

地域ボランティアの方が、園の周りや園庭の草刈りをしてくださっています。子ども達に話をすると、「ありがとうございます」と感謝の気持ちを伝える姿がありました。ボランティアの方が笑顔で「子どもに元気をもらった」と、とても喜んでおられ、人とのつながりや温かさに触れた一場面でした。

#### <すくすくクラブ>

民生児童委員やボランティアの方の協力を得て、未就園の3歳児の親子が、来園して活動しています。その中で、年6回実施している『のびっ子クラブ』の講師をお招きし、運動遊びを体験したり、在園児と体操やふれあい遊びを楽しみ、交流する機会をもったりすることができました。未就園児や家庭、園、地域とのつながりを感じることができています。



### 【今年度のまとめ】

コロナ禍で制限もありましたが、地域コーディネーターや地域の方々の協力のもと、活動方法を工夫しながら、事業を実施することができました。子ども達は、地域の様々な人との関わりや経験を通して、親しみや感謝の気持ちを持ち、人と関わる力や活動への意欲につながっています。

今年度は、保護者の方に『のびっ子クラブ』の様子を観ていただき、「子ども達が本当に楽しそうで、観ているこちらも嬉しくなりました」「みんなで楽しく体を動かしながら、少しずつルールを覚えていけるので良いと思いました」などの声が聞かれました。園の取組や子どもの様子を知っていただく機会となりました。

### 【来年度に向けて】

地域の方や保護者の方と連携しながら、人と関わり、人とのつながりを感じられる活動内容の充実をめざし、子どもの豊かな心の育ちにつながるようにしていきたいと思えます。